



元宿浄水場開放

6月4日(日)に「元宿浄水場開放」を開催しました。水道週間に合わせて開催しているイベントで、今年は、1194人が来場しました。

急速ろ過室や水質センターなど、ふだんは見られない施設の見学や、水道相談、蛇口のパッキン交換の実演、水道水とミネラルウォーターを飲み比べる「利き水」コーナーなど、水道に関する様々なイベントを通して水道への理解を深めていただくことができました。

また、地元の盆栽会の展示や、フラダンス愛好会、桐生商業高校ダンス部の出演で会場を盛り上げていただき、大勢の来場者を楽しんでもらうことができました。



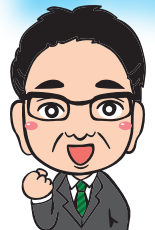
第17回けんこうまつり こどもフェスタ

6月11日(日)に保健福祉会館で、家族で楽しみながら健康と子育てに役立つ知識を体験を交えて学べる「第17回けんこうまつり」と「こどもフェスタ」を開催し、約900人が来場しました。

保健関係の団体や機関の協力により開催しているイベントで、健康チェックコーナーでは、骨密度、血管年齢、物忘れ、肌水分、敏しょう性測定など機械を使って楽しみながら健康チェックを受けていただきました。食育コーナーでは、紙芝居やかかるた、つりゲームなどお子さんから大人まで楽しめる内容で、親子で取り組んでいたいただきました。

こどもフェスタは、おもちゃ作りや手遊び、パネルシアターを行い大勢のお子さんに楽しんでもらうことができました。

こんにちは！
市長です



桐生は東京から2時間弱の距離にありながら、四季を感じられる豊かな自然、歴史と伝統あるまちなみや特徴ある食文化、パワフルな祭りなど、他の都市にはない素晴らしさがたくさんあります。そんな桐生に暮らすことを考える人のできる限り応援したいとの思いから「さりゅう暮らし応援事業」をスタートしました。

これは、桐生に移住や定住を考える人の住宅の新築・購入やリフォーム、また、空き家のリフォームや除却などに助成して応援すること、地域の活性化につなげ、「元氣・安心・未来を感じられるようなまちづくり」を目指すものです。

7月12日(水)には、東京の「ぐんまちゃん家」でマスコミ関係者を対象に、移住・定住促進のためのPRを行います。数ある桐生の魅力をひとつでも多く伝えてこようと思います。

新桐生駅を利用しましょう

エレベーター設置など駅の施設整備を早期に進めるには鉄道駅の利用者を増やすことが非常に重要です。鉄道でお出かけの際は、新桐生駅をはじめ市内の駅を御利用ください。
問い合わせは、広域連携推進室広域連携推進担当（☎内線386）へ。



新桐生駅は、改札と下りホームの間の移動には階段を利用するしかなく、高齢の人や荷物の多い人などが利用しづらい状況となっています。

市では、県が実施する新桐生駅周辺整備事業（都市計画道路本町線街路事業）に合わせ、駅をバリアフリー化するための調整を、現在、関係機関と進めています。

国土交通省では、鉄道駅のバリアフリー化について1日の平均利用者数3000人以上の鉄道駅を優先的に整備し、3000人未満でも地域の実情により、可能な限り実施するものとしています。

新桐生駅は、平成27年度の1日の平均利用者数が2250人でした。優先整備の基準に達していませんが、高齢者や障害者などの円滑な移動と駅利用者の利便性向上を図るため、早期のバリアフリー化に向け取り組んでいます。

公共交通を利用しましょう



公共交通の現状

急速な少子高齢化の進展や自動車に頼った生活への移行などの要因もあり、鉄道やバスなど公共交通の利用者は減少し、地域公共交通の維持が困難になってきています。しかし、地域公共交通の必要性が低下しているわけではなく、自動車を運転できない人たちははじめ、誰もが公共交通を利用して外出できるまち、人々が生き生きと活動できるまち、環境に優しい移動

手段が確保されたまちをつくることの重要性は、これまで以上に増えています。

利用しやすい公共交通とするために

今後も利用者の減少が続けば、利用されない路線は減便や廃線となり、より一層不便になることが考えられます。

公共交通を利用することが、鉄道やバス路線を維持することになり、また、利用状況により運行便数や施設整備などが検討されますので、利用者の増加が利便性の向上にもつながります。

環境に優しく、誰もが利用できる公共交通を将来に渡って維持していくため、鉄道やバスの積極的な利用に御協力ください。

問い合わせは、広域連携推進室広域連携推進担当（☎内線386）へ。